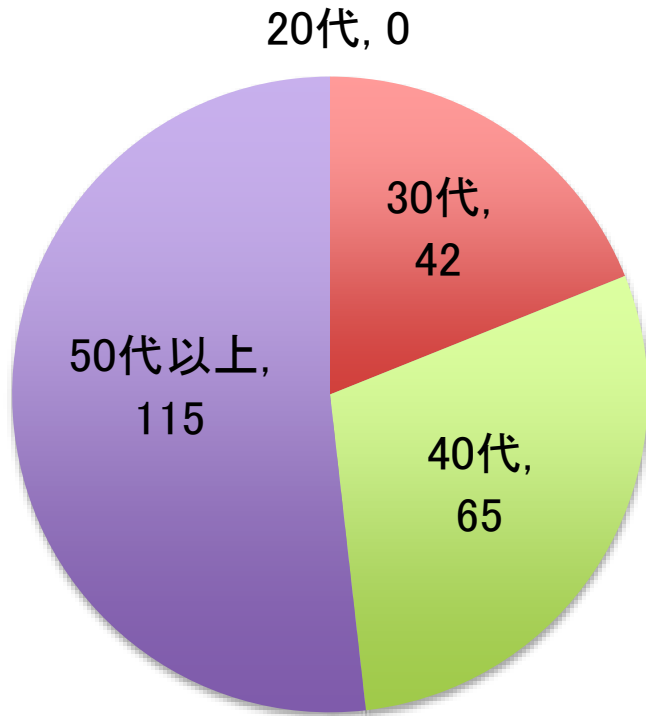


女性医師の働き方について

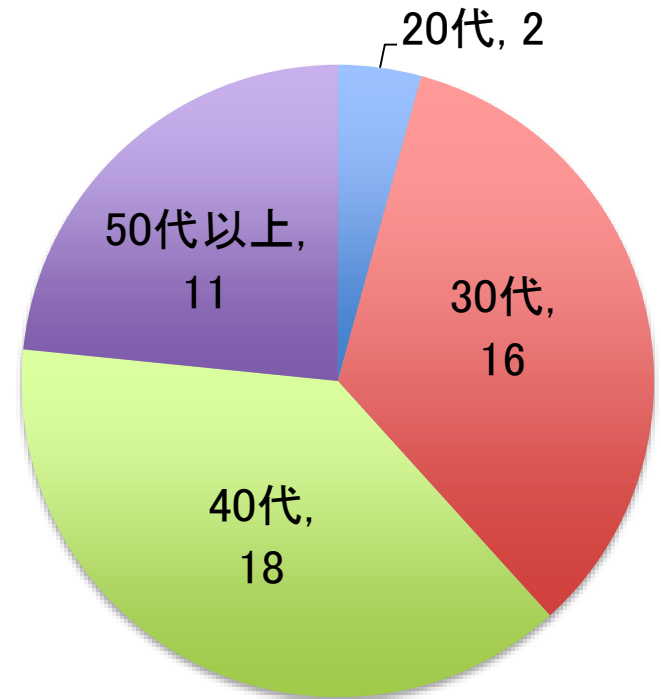
2019年5月24・25日の第113回日本消化器病学会九州支部例会において【げんばびと 現場のトップリーダーとの対話】と題し、女性医師の会主催の座談会を行いました。このアンケートは、座談会の参考とするため、2019年3月24日の第24回教育講演会(一部メール)で実施したものです。

年齡分布

1 男性

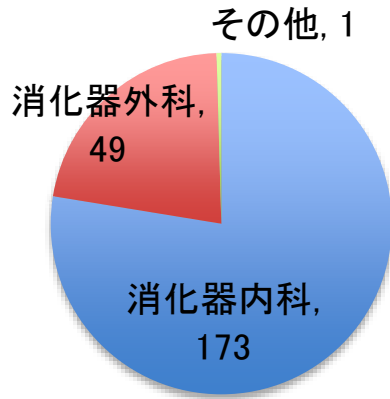


2 女性

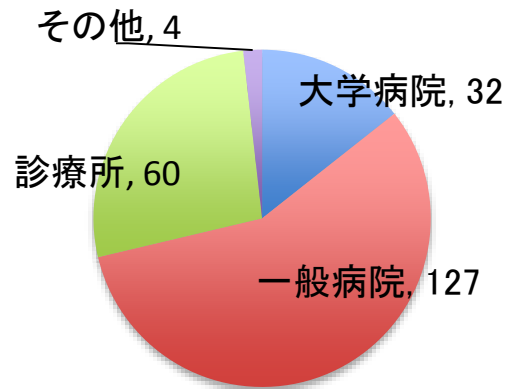


背景因子

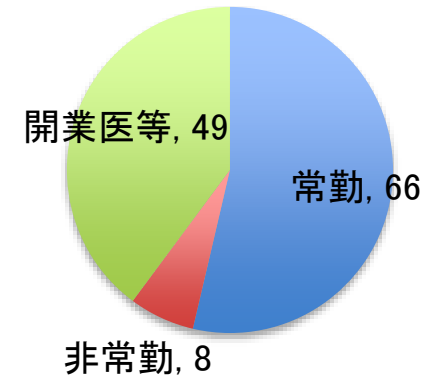
7. 専門



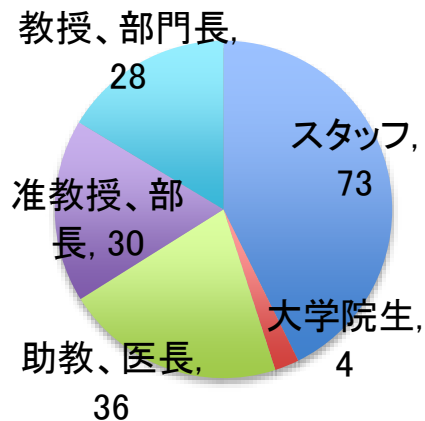
2. 勤務場所



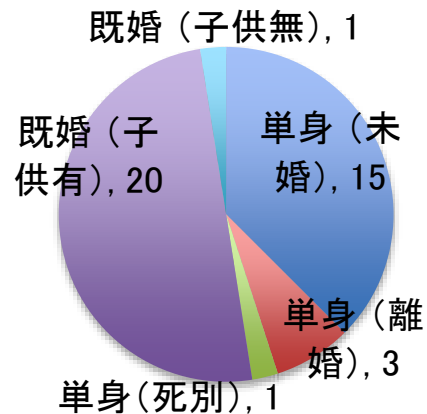
3 勤務形態



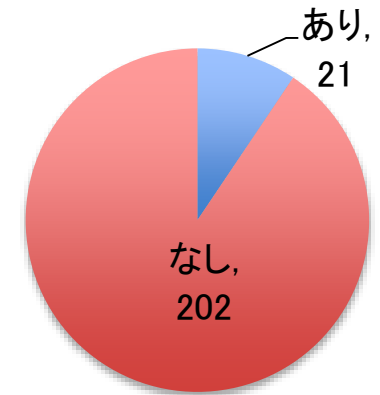
4 身分



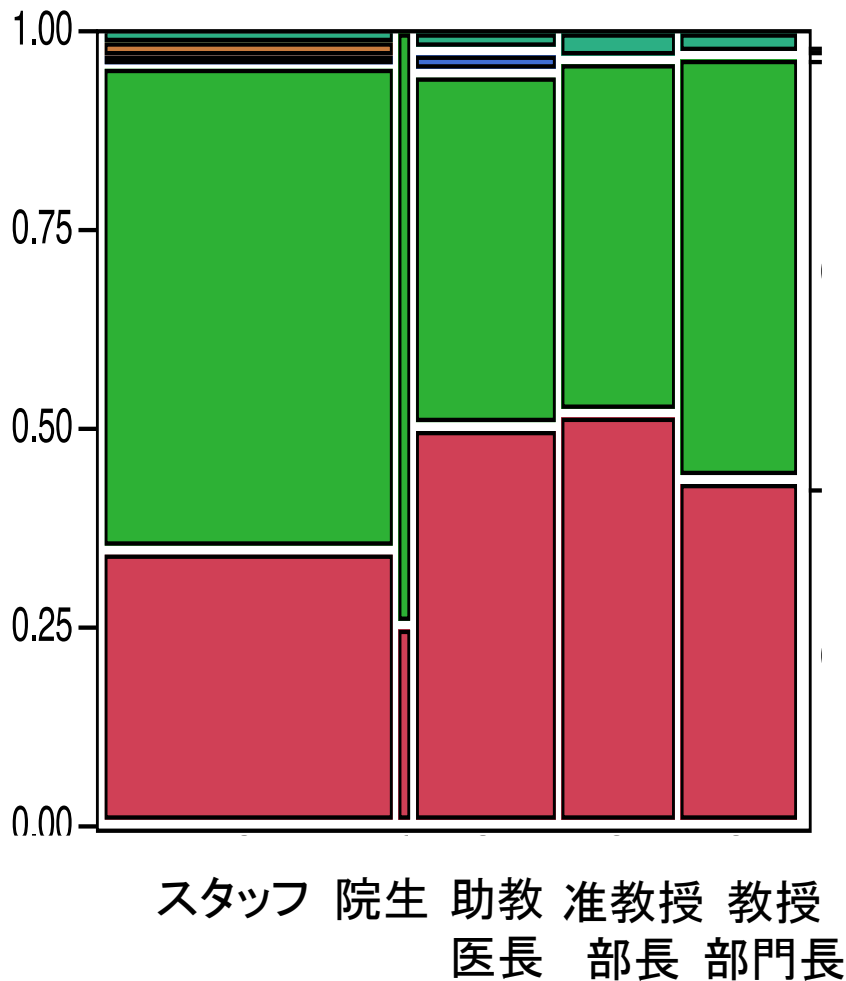
5 婚姻状況



6 介護の有無



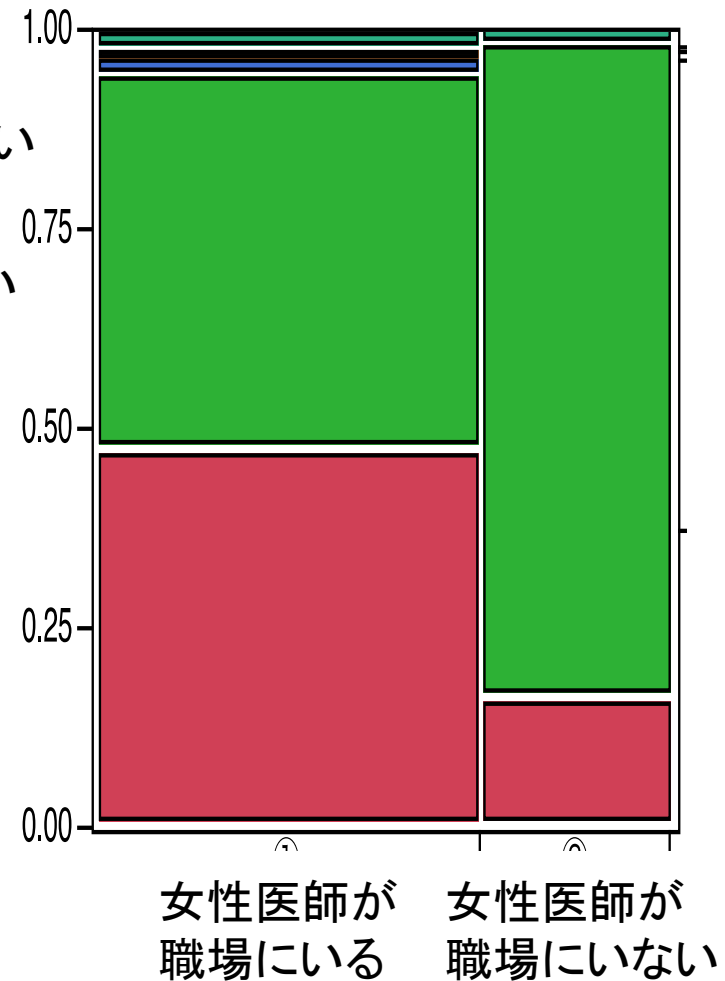
女性医師と同じ職場で働く事を どう思いますか



嫌だ
できれば
いない方がいい

どちらでもいい

望ましい



女性医師が
職場にいる

女性医師が
職場にいない

女性医師がいた方が良い点

女性医師に診てもらいたい患者もいるので
女性特有の疾患患者の対応に適している
下部内視鏡などの検査は女性医師を希望する女性患者がいるので。
女性患者は女性医師を希望するが多いので。

患者さんが希望するから

患者への共感力、謙虚さ、信頼性、寛容性などは男性より高いと考えられる。
男性と比較し、患者と向き合う医師が多い。
心くばりがよく細かい事に気がつく。やさしい
患者さん方にやさしい。熱心である。

性格や姿勢

男女かかわらず多くいればよい。患者の選択肢もふえる。
片寄りがある集団より男女で構成されている方が若い先生で消化器内科へのハードルは低い。
医師としての役目を勤めれば男女は関係ない。

男女関係なく

職場が和む。
男性医師と違う視点がある。
雰囲気良くなる。
多様性

職場の雰囲気

女性医師がいると悪い点

子育て等の休みによる 人手不足

出産を契機に働き手が減ることがある。
子供がいたら、急に休んだりする必要が出てくるため、そのサポートが必要。
急な休みが多く、直接その分の仕事が自分にかかってくる。
女性が多くなると出産、子育てなどで予定が不安定なのでそのサポート体制必要。
妊娠・出産時、人手が足りなくなる。
家庭の事情で病棟業務が出来ない人が多い。
子供の病気などで急に欠勤になる事
職場環境として女医は優遇されており、負担は男性医師にかかっている。
(女医へのサポートは行きすぎている感があり)

性格、姿勢

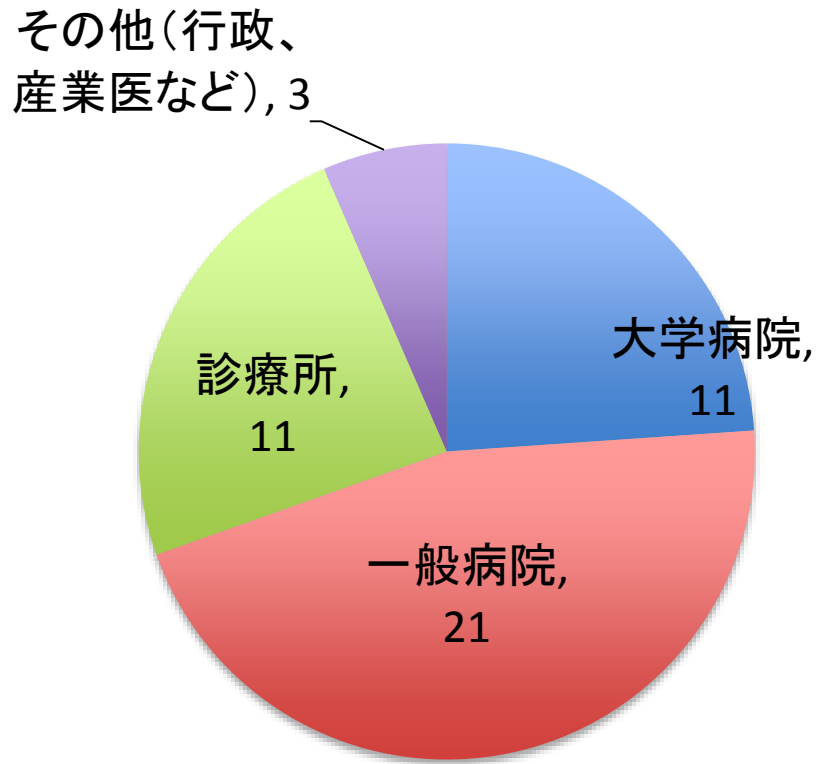
外来時間が長くなる傾向
怒りにくい
協調性に欠ける人がいる。休みが多い。楽な仕事、リスクの低いことしかしない。
手技がおしなべて下手
決断力が乏しい

設備、環境面

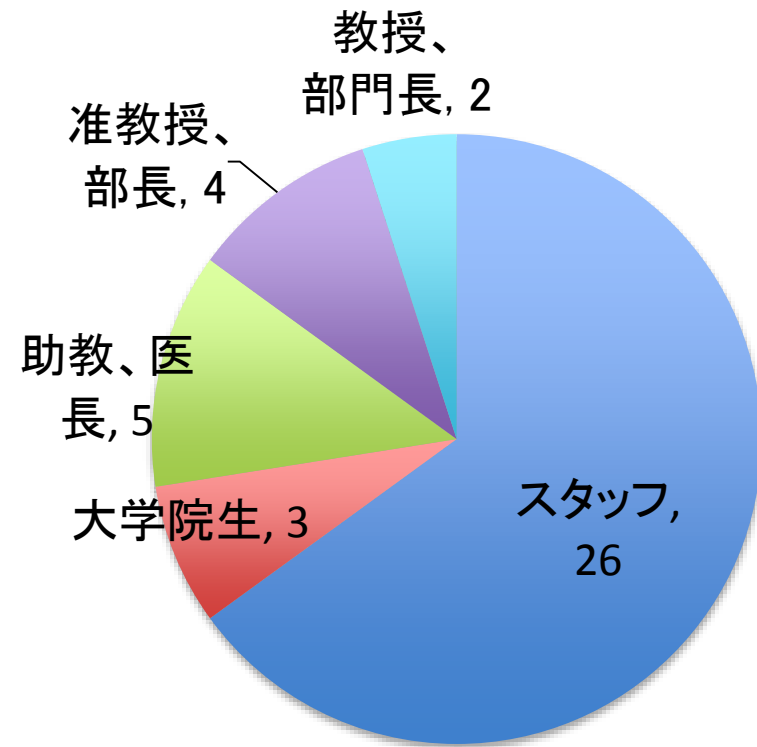
更衣室の別や生活
更衣室や勤務時間に対する配慮が必要(悪い点ではないですが)

勤務に関わる背景因子

2.勤務場所

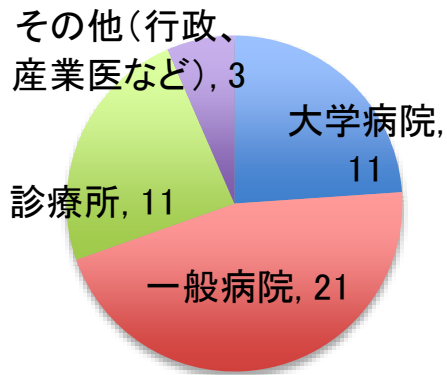


4.身分

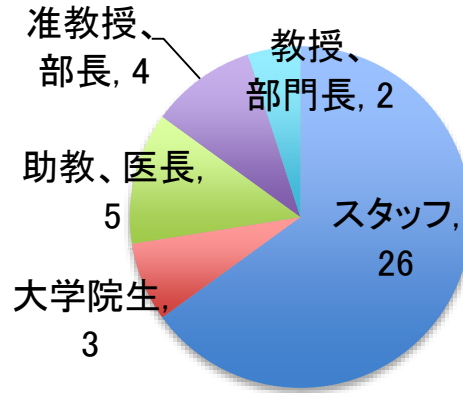


勤務に関わる背景

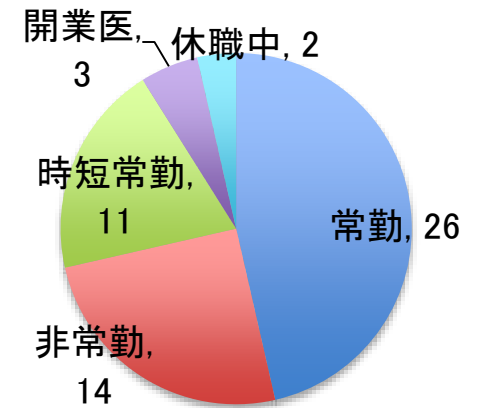
2.勤務場所



4.身分

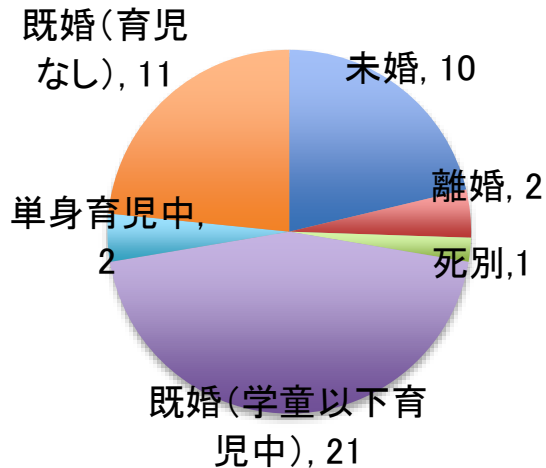


3.勤務形態

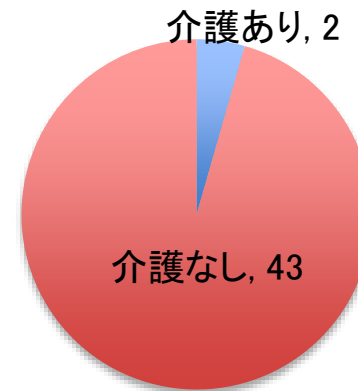


私的背景

5.婚姻状況

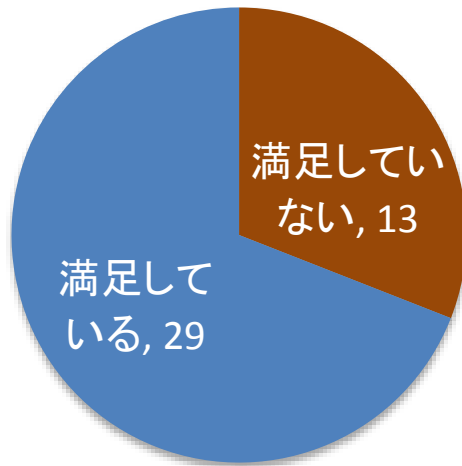


6.介護の有無

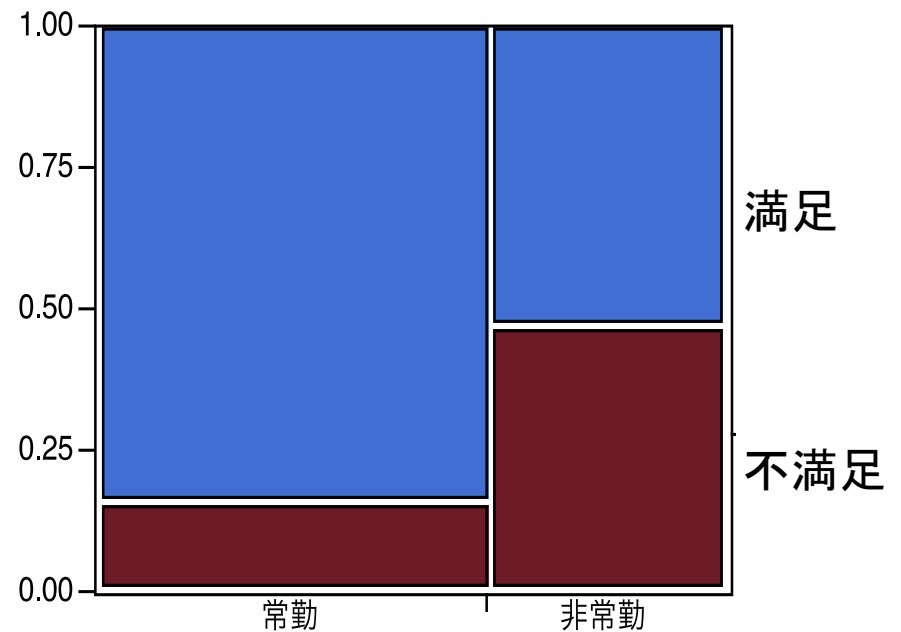


勤務形態別の 自分の働き方に対する満足感

働き方に対する不満足度



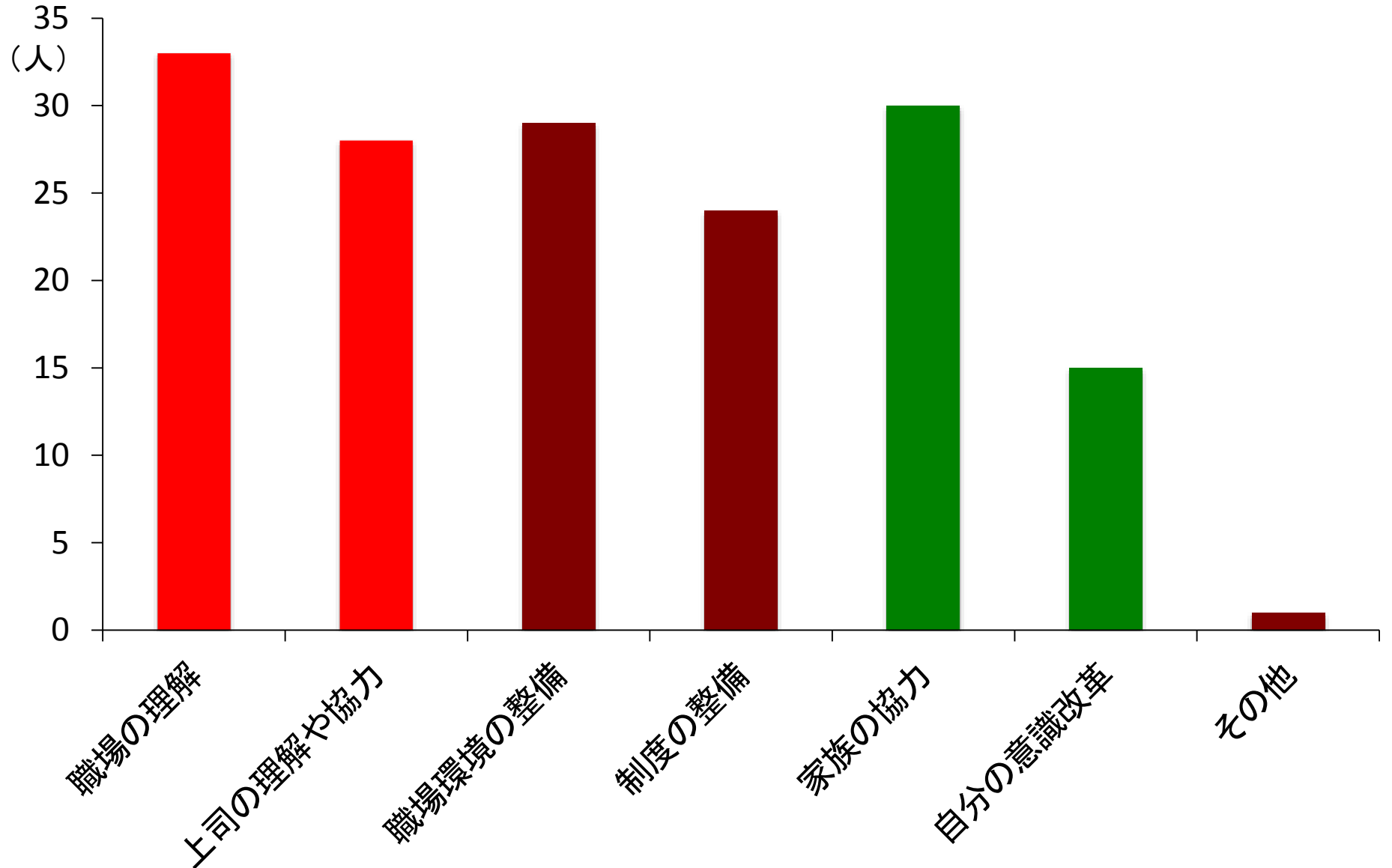
勤務形態別満足度



$p=0.0355$

非常勤の先生の約半数が
働き方についての不満を感じている

働き方をかえるため必要な事



職場において女性である事、働き方で不快な事

妊娠中に仕事を探していると断られた。
大学院の間に出産したいと言ったら怒られた。
妊娠休職を一般の休職扱いにされ昇進が大幅に遅れた。
妊娠して休職する事を伝えたら急に素っ気なくされた。

妊娠出産関連

子供の病気に休みをもらえなかった。
子育て中に当直をしないと文句を言われた。

育児関連

女性は適当に仕事してればいいよね、等と言われた。
女医はいらないと言われた。
女医だからというだけの理由で別の科に転科してはどうかと言われた。

女性に対する偏見

昇進等を後回しにされた。
女性で上の地位にいる人が少ない。
経験を積んでも上のステップの治療をさせてもらえなかった。
診療所での勤務なので知識が薄れやすい。

昇進、スキル関係

職場や上司に希望する事

時短、フレックスタイム

フレキシブルな働き方が認められるとよい。
。週4勤務やフレックスタイムなどがあれば可能ではないかと思えます。
産休や育休の際に、同僚の負担が増えないような職場作り
時短勤務、当直免除に理解をしめてほしい。

最先端医療への復帰

一般病院に戻って最先端の臨床を勉強したい。
妊娠、育児で復帰した場合の仕事の選択肢がとても少ない。職場の協力なしにできない
ので、特に上司で理解のある方が増えてくれたらと思う。

重要なポジションや仕事

意識の高い医師では男性女性関係なく、重要なやりがいのある仕事に就かせてほしい。
女性のシニアポジション者(准教授や教授など)の割合が低い。女性の職場でのモチベー
ションを向上させる必要性。

男女問わず働き方改革

男女とわず働きやすい職場、働き方をつくってほしい
医師全体の働き方改革が女性医師の働きやすさにつながる。

意識改革

ご家族の協力

子育てに関して近くに住む実家の親に頼らざるを得ないがそういう環境がないと常勤は難しいということが問題。

結婚の有無による仕事内容、結婚後の家事、育児(子供の急な体調不良で早退、欠勤の可能性あり)

主婦であり、朝食を作って出勤しているため朝早くからのカンファレンスは負担である。

女性だけが育児をし、仕事をセーブしないといけないという世論と制度自体に問題がある。